



田んぼわらしの ささやき

田んぼ 10年だより

第 14 号 2018 年 12 月 26 日発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称:田んぼ10年)ニュースレター
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

目次

ラムサール条約 COP13 での田んぼ関係の活動について 1~2
 地域からの報告① 民間稲作研究所 2
 地域からの報告② 河北潟湖沼研究所 3
 水田部会からのお知らせ(第4回田んぼ10年全国集会のご案内)他 3~4

国連生物多様性の10年最終年の2020年まで残すところあと2年となりました。愛知目標達成のために世界規模で様々な活動が実施されてきていますが、残念なことに達成は難しいだろうと予測されています。せめて、水田目標は達成したいものです。

さて、本号では10月21~29日にUAEのドバイで開催された第13回ラムサール条約締約国会議における水田関係の活動報告と、田んぼ10年プロジェクト参加団体の民間稲作研究所と河北潟湖沼研究所から活動報告が届きましたので掲載しています。

また、2019年2月24日には、東京において「第4回田んぼ10年プロジェクト全国集会」の開催を予定しております。プログラムには、田んぼ10年プロジェクト参加団体の活動報告の時間もあります、ぜひご参加の上、活動報告等をお願いします。

* * * * *



第13回ラムサール条約締約国会議(ラムサールCOP13)での田んぼ関係の活動について 安藤よしの

COP13での田んぼ関係の主な活動としては

1. サイドイベント「水田決議-次の10年」開催、
2. ブースでの展示、

3. NGO プレ会議での発表と NGO 宣言、などがあげられます。

ここでは特にサイドイベントについて報告します。

■サイドイベント「水田決議 これからの10年」■

日時: 10月23日 18:15~19:30

主催: 日本環境省・韓国環境部

共催: 日本農林水産省 慶尚南道ラムサール環境財団
 ラムサール・ネットワーク日本

このサイドイベントは、ラムサール COP10(2008年韓国)で採択された水田決議について、この10年間での実施状況を振り返り、気候変動の影響や持続可能な農業などを考慮したこれからの10年の活動に向けて議論しようというものでした。

ラムネットJ 柏木 実さんの進行でイベントが始まり、環境省自然環境局野生生物課 課長の堀上 勝さんの挨拶のあと、

第1部では環境省野生生物課 専門官の市川 智子さんが水田決議の経緯、背景などを紹介しました。さらに、ラムネットJの呉地正行さんが田んぼ10年プロジェクトの進捗状況とこれからの活動について発表しました。韓国の水田決議の実施状況に

ついては、韓国環境部のイ・ジョンファンさんが報告しました。さらに、ケーススタディとしてラムサール環境財団のイ・ヨンソさんが韓国のトキの取り組みについて発表しました。田んぼの関係では韓国水田生態系ネットワークのイム・ジヨムヒャンさんの活動をパク・ソニョンさんが英語で紹介しました。イム・ジヨムヒャンさんの活動は田んぼ10年プロジェクトにも登録されています。

第2部ではこれからの10年の大きなテーマについて報告がありました。まず「気候変動と田んぼの生物多様性」について、COP13の副議長として多忙なウガンダの水/環境省のポール・マファビさんが発表に駆けつけてくださいました。雨期の開始の変動や高温障害、病害虫によるダメージ等、ウガンダ稲作への影響について紹介しました。

次に「都市と水田」について、農林水産省の滝 克也さんが、都市部の水田が持つ防災機能・リラックスできるグリーンスペースの提供・国土と環境の保護などの多機能性について説明。大阪府寝屋川市、横浜市の事例を紹介しました。続いて、「田んぼの生物多様性に支えられた食糧資源」について、FAOのエドワルド・マンズールさんが水田の生きものの重要性についてなどを発表しました。

最後の質疑応答では、農水省の滝さんが「農家の高齢化がす



ラムネットJ 柏木実氏



野生生物課長 堀上勝氏



専門官 市川 智子氏



ラムネットJ 呉地正行氏



韓国 イ・ジョンファン氏



韓国 イ・ヨンソ氏



韓国 イム・ジヨムヒョン氏 パク・ソヨン氏



ウガンダ ポール・マファビ氏



農林水産省 滝 克也氏



FAO エドワルド・マンズール氏

すみ、次世代が育っていないことが問題」と指摘し、「農業は湿地を破壊する原因の第1位では」という質問には、マンズールさんが「良く管理された水田は気候変動の影響に対する回復力があり、保水能力もあり、我々は優良事例を奨励しています。」と答えました。

今回は「湿地における農業」の決議が出されたこともあってか、日本人以外のたくさんの参加者がおり、席が足りずに後方に立ったり、床に座って話を聞く人もいて大盛況でした。

COP13 では、サイドイベントの希望件数が多すぎて枠が足りな

くなり、水田決議に関するサイドイベント希望が私たちのものを含め、2件あったため、これらが一つにまとめられてしまった結果、残念ながら時間が足りず、全体が急ぎ足となってしまいました。ぜひこの話の続編をじっくりと聞きたいという感想を持ちました。

なお、今回の COP では「湿地における農業」決議が採択され、私たちがこの新しい決議を読み解き、関係者の皆さんにお知らせすることが必要だと考えていますが、この作業にはもう少し時間がかかりそうです。



地域からの報告 ① ブータン王国の有機農業 100%の取り組みをご支援ください。

民間稲作研究所 稲葉光國

■ブータン王国も収穫の秋、無農薬、有機栽培のお米は黄金色でした。2018年10月22日～28日 訪問報告

<空港を見下ろすパロの天空の棚田で実ったササニシキ>

除草は田植え後30日と出穂後の2回のみ、少し水を落としたのが早かったのですが、収穫は500kg/台でした。驚きは大豆跡に栽培したカナダ小麦を刈り取って移植した No.11 (西岡氏の導入した農林11号)が見事に実っていたことです。ブータ

<王宮裏の実験圃場の黄金色に輝くササニシキ、登熟歩合(実った籾の割合)は95%を超える見事な実りでした>

平均気温22度、日射量は長野並というブータン王国首都ティンブーの気象と、収穫一週間前まで水を入れ続けた有機の田んぼです。おいしいササニシキが収穫されることになると思います。これを使って麴を作り、チミパンの王立農場で栽培した大豆を使って味噌づくりを実施したいと考えています。美しい生きもの

<チミパン王立農場のストーンクラッシャー導入にご支援をお願いします>

チミパン農場では小さな棚田を統合し、約10haの棚田を18枚作りました。日づ共同作業で播種してきた大豆は、素晴らしい品質が良く、収穫量も10aあたり120kgという素晴らしい成果でした。しかし、川が近いので、沢山の石が露出し、現地の方で取り除く作業が発生しました。この場所を水田にするためには、石を取り除き、代掻きをする必要があります。その解決法がストーンクラッシャーとトラクターの導入です。去る12月19日に、クラウドファンディングサイト Ready for において、目標額の700万円を超える7,579,000円のファンドを達成しました。こ

んで最も寒いパロ、その地で大豆⇒小麦⇒イネが輪作できるということは循環型有機農業がブータン全体で可能であることを示すもので、これが全国に普及すれば自給率は有機栽培で100%を超えることになります。

「狸々トンボ」(酔っぱらいトンボの意味)がビオトープで産卵に勤しんでいました。自然の復元力に感動です。きっと王子様の生まれ変わりかもしれませんね(輪廻転生を信じるブータン人に合掌)。

れで、中古のストーンクラッシャーとトラクターを購入することができます。しかし、循環型有機農業に必要な、肝心の搾油機が購入できません。あと少し、皆さまからの支援が必要です。直接振込でのご支援を引き続き受け付けておりますので、是非、ご支援をお願いいたします。

(足利銀行 石橋支店 普通預金 口座番号 3002513 特定非営利活動法人民間稲作研究所 理事 稲葉光國) これで、来年の3月までに石が砕かれ、代掻きが行われて水漏れがなくなれば、プロジェクトは大成功となります。



パロのササニシキ



ティンブー王宮殿裏(ササニシキ)



トンボ



チミパン王立農場の大豆



「田んぼ一枚ごとにお米を管理しています」というと、買う人にも米作りに携わっている人にも驚かれることがあります。石川県河北潟地域で私たちが取り組んでいる「生きもの元気米」は、田んぼ一枚ごとに収穫したお米を別々に管理し、田んぼごとのオリジナル袋に入れて販売しています。袋に記載しているのは田んぼごとの情報です。栽培農家さん、田んぼの地番、農薬や肥料はどうしているのか、これらに加えてその田んぼにいた生きものを載せています。この情報は、栽培期間中に実施した生物調査に基づいています。クモが多い田んぼ、イナゴが多い田んぼ、イトトンボが多い田んぼ、カイエビが多い田んぼ等、生きもの様子も田んぼごとに個性があります。袋にこういった生きもの情報を載せることで、食べる人にも農家さんにも、田んぼの生きものへの関心を増やしてほしいという思いも



生きもの元気米を示す幟



田んぼごとの生き物調査

あります。

田んぼ一枚ごとの管理は、稲刈りから後の作業、乾燥や粃摺り、お米が出来上がった後の管理や袋詰め等の作業を考えると、手間のかかることです。しかし作った人や場所、田んぼの様子がわかることは食べる人の安心につながり、また農家さんにとっても、自分が作ったお米をアピールでき、また自分のお米を食べた人からの感想を聞くこともでき、やりがいにもつながっています。ちなみにお米の味も、田んぼで食べ比べてみると味が違います。

生きもの元気米は開始から2018年で5年目を迎えました。最初の年からこの取り組みに参加していただいている田んぼは、5年続けて生物調査を行っていることとなります。地域の色々な田んぼの生物情報を蓄積することも、この活動の大きな目的です。

2014年の開始よりたくさんの方に応援いただき活動を続けてきています。これからも「農薬を使わない、または削減した農地をひろげ、農地の生物多様性を保全すること、農家さんが米作りを通じて元気になること、消費者に安心して食べられるお米を届けること」を目指し活動を進めていきます。応援よろしく願いたします。



水田部会からのお知らせ



第4回田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト全国集会

全国集会では、この1年間のラムネットJ田んぼ10年の活動を報告して、参加者のみなさんと情報共有するとともに、これまでの約8年間の活動の振り返りと、2020年以降の活動についての意見交換を行います。

●日時：2019年2月24日（日） 10:30～17:40

●場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター（カンファレンスルーム4C） 東京駅八重洲中央口より徒歩5分

●主催：NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

お申込みはこちら ▶ <http://urx.blue/OG0H>

●プログラム：

・開会

第1部 2018年度の活動を振り返って

- 1) 田んぼ10年プロジェクト2018年度活動報告
呉地正行（ラムネットJ）
- 2) 同 地域交流会および意見交換会
安藤よしの（ラムネットJ）
- 3) 国際協力（ブータン循環型有機稲作支援プロジェクト）
稲葉光國（民間稲作研究所）

<<昼休み>> （展示等の閲覧）

第2部 各地の活動報告

- 1) 登録団体の活動報告（3団体程度）
- 2) 田んぼの生物多様性向上と消費行動
 - ・大塚 泰介（琵琶湖博物館）
 - ・高橋 久（河北潟生きもの元気米）

- ・鮫田 晋（いすみ市 有機米100%の学校給食）
- ・三橋 豊（JA あいち豊田 赤とんぼ米）
- ・JA 全農（JA 全農の田んぼ体験広報戦略）
- ・鈴木礼子（いばらきコープのお米の生産者と組合員をつなぐ活動）

<<休憩>> （展示等の閲覧）

第3部 ディスカッション「田んぼ10年のこれまでとこれから」

モデレーター：浅野正富

話題提供：「水田決議の実施状況」オリザネット 斉藤光明

パネラー：呉地・大塚・高橋・鮫田・三橋

・事務局からご案内

・閉会

<懇親会>

18:00～19:30（東京駅八重洲口周辺）予定



●全国集会以での登録団体の活動報告 発表者募集

- ◆ 第2部の冒頭で、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの登録団体の活動報告の時間を設けました。
- ◆ 募集する枠は3団体を予定しています。1団体につき、持ち時間は10分程度です。
- ◆ 発表を希望する団体は、1月末日までに、ラムネットJ事務局 (info@ramnet-j.org) までご連絡ください。

●ポスター展示の募集

- ◆ 団体のポスターは壁に貼る形で展示可能（養生テープを使用）
- ◆ チラシ・資料は長テーブルの上に並べることは可能（50部程度を持ち込み・持ち帰りをお願いします。）
- ◆ 展示を希望される団体は、2月10日までに、ラムネットJ事務局 (info@ramnet-j.org) までご連絡ください。

【田んぼだより13号以降のたんぼ10年プロジェクトの主な活動】

- 7月20日～22日 第5回生物の多様性を育む農業国際会議 in いすみ市
- 8月2日 第1回SDGs学習会「田んぼの生物多様性とSDGs」
- 8月22～23日 長野県佐久市 地域意見交換会
- 8月27～28日 秋田県大潟村 地域意見交換会
- 10月21～29日ラムサール条約 COP13 サイドイベント開催・展示等
- 11月8日 第2回SDGs学習会「田んぼ10年のこれまで&これから」



第5回 ICEBA in いすみ市



佐久市での意見交換会



ラムサール COP13 での展示



大潟村での意見交換会（アフリカからの参加者と共に）

■田んぼ10年プロジェクト新規登録者のご紹介
(2018年7月～11月)

244	愛知県	小島達幸
245	長野県	臼田節雄
246	長野県	横山孝子
247	宮城県	むかい＊いきもの研究会

▶ドバイ サービスカット



Ras Al Khor Wildlife Sanctuary

ドバイのラムサール湿地 ラス・アル・コー野生生物保護区（白いフラミンゴ）



情報をお寄せください

田んぼ10年事務局では、皆様からの情報をお待ちしています。是非、皆様の活動の様子を、メーリングリストや田んぼだよりでご紹介ください。寄稿歓迎。また、「このような内容の記事を掲載して欲しい」などのご希望もお寄せ下さい。

次号の特集予定：

- ・第4回田んぼ10年プロジェクト全国集会報告
- ・フィリピン イフガオでの田んぼの生き物調査報告
- ・各地からの報告



田んぼ10年プロジェクトは、企業からの支援をいただいています。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566



田んぼ10年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の10年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成30年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。